令和２年度　学校経営報告

都立北豊島工業高等学校長　中里　真一

重点目標	当初の目標数値等	達成数値	成果と課題
中途転退学者の減少 （魅力ある学校生活の構築）	中途転退学者の減少（学校全体で20名以内） ○　1年生　在籍数の1割以内（14名以内） ○　2年生　在籍数の５％以内（5名以内） ○　3年生　全員卒業	◎　学校全体では24名　※　昨年21名（一昨年59名） ○　1年生　12名（うち転学者8名）※昨年16名 ○　2年生　9名（うち転学者6名）　※昨年4名 ○　3年生　3名　※昨年1名	「あきらめない、あきらめさせない」を掲げて３年目。補習補講の充実や丁寧な指導の徹底により、学力不足等で進路変更をする生徒は激減した。転退学者は昨年度に引き続き減少しており生徒の定着率は確実に上昇した。転学者が増加しており丁寧な指導の表れでもある。コロナの影響で転学をした生徒も少なくない。今年度は特殊な状況であった。 次年度はこの定着率を確実なものとする必要がある。
進路希望の実現 （3年間を見通したキャリア教育の実現）	○　進路内定　100％ （一次内定率　80％以上） ○　資格取得の推進	◎進路内定　100％達成　※　昨年100％ （一次内定率　60％　※　昨年87％） ◎資格取得の推進（主なもの） ジュニアマイスター・ゴールド　1名　※昨年4名 ブロンズ　5名　※昨年2名 電気工事士　1種　5名　※　昨年4名 2種　15名　※　昨年20名	コロナ禍で就職活動は非常に厳しい状況ではあったが進路内定率は今年度も100％を達成できた。今年度は就職一次内定率が60％と昨年度より下降したがあきらめずに活動したことで進路希望の実現につながった。次年度も進路決定率が100％となるように指導を行っていく。 資格指導については徹底した補習補講の成果が出ている。コロナ禍で資格試験等が中止となる中であきらめない姿勢で取り組んだことが結果として現れた。特に電気工事士では1回だけの受験チャンスにしっかりと取組み計20名の合格者を出している。また、ｼﾞｭﾆｱﾏｲｽﾀｰｺﾞｰﾙﾄﾞをはじめ多くの資格取得にチャレンジし資格に合格した者が多くいた。
安心・安全な教育環境	○　特別指導の減少：昨年度以下 ○　補習補講の充実：全教員での取組み ○　いじめ・体罰”０”	◎特別指導件数：　11件　※　昨年13件 ◎補習補講の充実：　土曜補習　12回　※昨年12回 全教員での長期休業中等の補習の実施 放課後等の補習の実施 ◎いじめ・体罰：　「０」	朝の正門指導での声掛けや集会での声掛けが効果を表し、教員と生徒間でのコミュニケーションがしっかりととれるようになってきた。新たな取り組みとして自転車の安全指導の一環として登校時の正門での下車指導は定着した。生活指導面でも生徒に自主的に直させる指導を徹底してきた成果が出てきた。 基礎学力の定着や苦手科目の克服のために補習を実施してきた。その結果、レポートの未提出や課題の未提出者はほとんどいなくなった。また、定期考査前の各教科での補習の成果も現れ成績不良者も補習補講に出席し一定の成績をとれるようになってきた。
広報活動の充実と募集対策	○　学校説明会等の充実：6回以上 ○　HPの充実：更新回数100回以上 ○　募集倍率：1.1倍以上	○　学校説明会（個別相談会）：7回 ○　中学校訪問の充実：延べ100校以上 ○　HPの更新回数：100回以上 Twitterの再開（５月より） ○　募集倍率（充足率）：　83.6%	コロナ禍の状況で学校説明会は実施できず、すべて個別相談会および学校見学とした。8月から2月までの間で計7回行ってきた。8月は個別相談週間として1週間個別相談会を実施した。個別相談会ではあったが参加人数は昨年度以上の参加者はあった。しかしそれが応募状況鬼は現れてこなかった。地域からの応募者の伸び悩みもあり、工業高校としてのアピールの方法や本校のPRの方法をもう一度練り直す必要がある。TwitterやHPの閲覧数は確実に増えてきている。
学校運営の改善	○　分掌等の精査 ○　企画調整会議の活性化 ○　教職員のライフワークバランス	○　広報充実のため総務部の新設 ○　委員会の精査 ○　企画調整会議は毎週確実に実施できた ○　時間外勤務時間の減少に取り組む	総務部を立ち上げ、2年目となり広報活動は成果をあげつつある。工業高校全体で応募状況が厳しい中で充足率は昨年度並にはなってきた。Twitterの立ち上げや更新回数の増加、HPの更新などインターネット等を活用した広報活動も定着してきた。教員定数が減少する中ではあるが教務部と総務部を分離したことで各部の役割がはっきりとし活性化されてきた。委員会は統廃合をしスリム化できるようになってきた。企画調整会議は毎週定例で行い、意見等も活発に出るようになってきた。職員会議のスリム化により会議を減少できた。 ライフワークバランスを奨めるために時間外勤務の減少を常々伝えている。80時間/月は年間延べ13名で抑えられた。